

本と covid-19 が教えてくれた大切なこと

小坂 昌代（東京都国分寺市 はらっぱ文庫）

2 月末の突然の休校要請の報に始まり、あれよあれよという間に次々と日頃あって当たり前だと思っていたものが目の前からなくなっていきました。我が家にとって、図書館やはらっぱ文庫もそのひとつです。文庫はそのまま春休みのお休みに入り、国分寺市の図書館は3月3日から5館全てが臨時休館となりました。急な休館に対する市民の声が届いたのでしょう、2週間後の3月17日からは、予約していた本の受け取りや返却のみできるようになりました。閲覧コーナーや書架への立ち入りはできないままでしたが、カウンター近くの棚には図書館福袋が置かれ、借りることができるようになっていました。

図書館福袋は、以前にも国分寺市の図書館で行われていたサービスですが、自粛期間を少しでも楽しく過ごしてもらえたらと職員の方たちが考え用意してくださったものです。「桜を知る」「歴史小説」「村上春樹」「苔を極める」などテーマが書かれた紙袋の中に3冊の本が入っています。子ども用の福袋には「おいしいものが出てくる本」「楽しい気持ちになる本」「誰かに話したくなる本」などと書かれており、中には本の感想を書けたり「こんな福袋があったらいいなと思ったら教えてね」と書かれたアンケートも入っていて、子どもと一緒に「今日は何の福袋があるかな？」と楽しみに足を運んでいました。



その後緊急事態宣言が出され、4月16日からはそうしたサービスも受けられなくなり、再び全館完全休館となってしまいました。

新学期が始まっても子どもたちは学校に通うことができず、前年度の復習や配布された教科書やプリントなどで自宅学習をする日々が続きました。オンラインでも本を読めるように出版社などによる無料公開が次々と始まってはいましたが、画面を読むのではなく紙のページをめくることの味わいや大切さを再認識したのもこの頃です。「子どもたちが読む本がなくて困っている」という周囲の友人の声もだんだんと聞こえるようになってきました。

時を同じくして、自粛生活の中、素敵な布でマスクを作り、希望する友人宅のポストに届ける活動を始めた友人や、毎日三度の食事の支度が続くのは大変だろうからと手作りのお惣菜を届けてくれた友人がいました。

「休校」「図書館臨時休館」「本の福袋」「本が足りない子どもたち」「ささやかでも自分にできること」…いくつかのキーワードが頭の中を駆け巡り、思いついたのが無料の貸本屋の活動です。

我が家にはなんでもかんでも揃っているわけではないけれど、読みきれないほどの本が棚いっぱい詰まっています。ここから希望する友人に本を貸したら喜んでもらえるかもしれないと、4月の下旬に SNS の友人限定でこんな投稿を流してみました…。

《いずみ町貸本屋＊福袋お届けサービスはじめます》

♪顔の見えるお友達限定で私の蔵書を数冊お貸しします。
ご希望の方はメッセージにて、ご住所をお知らせください。
お近くの方へは、私の運動不足解消がてら自転車でポストイン。
遠方の方へはご郵送いたします。

♪お届けまでの日数がかかる場合もございます。冊数やお届け日
のご連絡などはいたしませんので、気長にお待ちください。

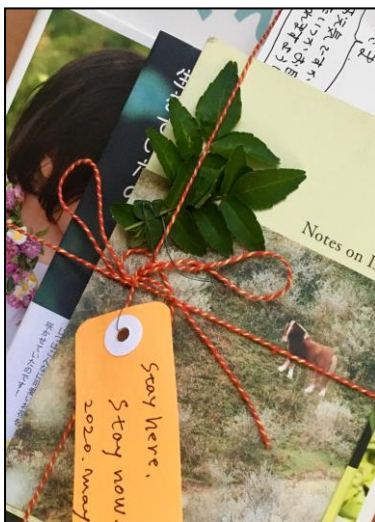
♪ご返却について

ご郵送または直接我が家のポストへお願いします。その際に本の
感想やお子さまのリアクションなどひとことと、ご郵送の場合は
お送りした分の切手を同封していただけましたら嬉しいです。

♪お貸しする本は私の蔵書の中からご依頼主の方のことを思い浮かべながら勝手に選ばせていただきま
す。貸本代は無料です。蔵書の傾向にかなり偏りがございます。コンディションよい面白い本ばかりと
は限りません。趣味でない本や既読の本が届いたとしても、温かく受け止めていただければと存じます。

♪お子さま用の本をご希望の場合は、その旨と年齢をお知らせください。

♪その他お問い合わせはメッセージにてお気軽にどうぞ。



すると、このような自分勝手なお誘いにもかかわらず、その日の
うちから申し込みのメッセージが届き始めました。

ご近所の方や娘の友人のお母さんからだけではなく、夫の同級
生や数年前の親子キャンプで一緒した方、かつて同じ講座を受
講した知人などこれまであまりお会いする機会のなかった方から
のご連絡もありました。

友人やお子さんの顔を思い浮かべながら本棚の中から数冊選び、
貸し出し票とメッセージをつけ、梱包をしてお届けする。少しで
も楽しんでもらえたらと始めた活動でしたが、いつの間にか私自
身にとって自粛生活の楽しみとなくなっていました。

返却された本と共に届く感想などが書かれた短いけれど心のこ
もったお手紙と、ギフト！自家製の生姜シロップやクッキー、庭

のハーブで作ったうがい用のお塩、お酒のアテにと自家製黒豆味噌に山椒の葉と胡桃を合わせたもの、
お取り寄せした河内晩柑…。5月末までのおよそひと月の活動で12組に約100冊の本を貸し出しましたが、
私が届けたものよりも友人たちからもらったものの方がはるかに大きかったと、本が紡いでくれた
友人との温かなやりとりを思い返すと胸がいっぱいになります。

緊急事態宣言が解かれ、少しずつ自粛前の生活が戻りつつあります。市立図書館も5月26日から予約
資料の受け渡しが始まり、29日からはリクエストの受付が再開されました。受付初日は開始2時間で1600
件もの申し込みがとか。6月3日からは閲覧コーナーの使用不可、一人30分の制限つきながらも書架へ
の立ち入りができるようになりました。

この春の3ヶ月の社会的な損失や医療関係者の皆さまのご苦勞、ご病気や経済的な困難で苦しまれて
いる方のことを思うと、胸がつぶれるようです。これまでの暮らし方を立ち止まってゆっくり考える機
会と時間をもらえた一人として、本のページをめくることのできる日常のありがたさを、ずっと忘れず
にいたいと思っています。